

調査報告概要表

作成日 2007年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)4675800090
法人名	社会福祉法人 昭芳庵
事業所名	グループホーム 芳明庵
所在地 (電話番号)	始良郡湧水町般若寺358番地 (電話)0995-75-4622
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成 19 年 10 月 31 日

【情報提供票より】19年9月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 13.4

(2)建物概要

建物形態	併設	新築/改築
建物構造	鉄筋・木造 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	実費+共益費約3,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4)利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1		名	要介護2	7	名	
要介護3	4	名	要介護4	6	名	
要介護5	1	名	要支援2		名	
年齢	平均	89 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	林内科医院 中村歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かで閑静な環境の中、広い敷地内に同法人の高齢者施設や町営高齢者福祉住宅に隣接した場所にあり、利用者はゆっくり・のんびりと過ごしている。ホーム内は落ち着いた採光となっており、懐かしい民芸家具・調度品が置いてあり、長廊下のソファでは利用者がそれぞれの空間を過ごす姿が印象的である。利用者が求めているものは何かを法人全体で捉え、職員一人ひとりの力を最大限にいかし、地域の中で何かを作りあげたいという強い信念を、管理職をはじめ職員が持っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	金銭管理の支援に関して、家族の意向を聞きながら利用者によっては金銭管理を行うという取り組みをしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員ともに、外部評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市職員・地域の代表者・利用者家族等に対して、認知症の理解をってもらう機会とし、行事に関することや様々な事柄について意見をだしてもらい、地域の協力体制の強化を図っている。今後は、学校や幼稚園などにも声をかけ、教育関係者の参加依頼を検討中である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を一年に一度開催し、意見を引き出す努力をしている。また、記録物の開示や行事参加の呼びかけを行うとともに、ホームで一緒に食事をしてもらうことで意見や要望を言いやすい雰囲気となるよう努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者及び職員は地域の行事に参加し、地域の方々との交流や連携に努めている。また、中学生の職場体験を受け入れたり、「芳明庵だより」を地域に回覧することで地域との関わりを積極的に持つようしている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念として、「生活主義、五感主義、よりよく生きる」という理念を掲げている。	○	地域密着型サービスとしての役割を職員が理解するうえで、また、ホームに関係する方々にもわかりやすいように、職員等に浸透しやすい理念について検討して欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングにて理念の共有を図っており、実現に向け取り組んでいる。また、管理者は日常的に話すことにより意識づけを図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は、敬老会や運動会をはじめとする地域行事に参加したり、中学校の体験学習を受け入れたりと交流を深めている。地域に「芳明庵だより」を回覧してもらうことで積極的に関わりを持つ努力をしており、近隣の方が立ち寄って野菜を下さるという場面もみえる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義について理解し、自己評価は職員全員で取り組んでいる。前年度の改善点については話し合いを持っており、金銭支援に関しての取り組みを実施している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員・地域の代表者・利用者家族等の参加により開催し、認知症の啓発や行事報告などを行うとともに、それぞれの立場からの意見をもらいサービスの向上に活かしている。	○	今後は、学校や幼稚園などの教育関係者の参加についても働きかけていく予定があり、運営推進会議をとおして更に地域とのつながりを深めていってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険担当課や福祉事務所との行き来があり、地域包括支援センターとも連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月金銭出納報告をし、職員の入職の連絡も行っている。家族来訪時には、個人記録を見てもらいながら利用者の状態を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に一度開催し、意見を聞く機会を持っている。記録の開示や行事への呼びかけをするとともに、日頃から家族も一緒に食事参加することで意見や要望を言いやすい雰囲気となるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解した上で、必要に応じてまたは職場ニーズにあわせて異動を検討している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者はリーダー研修等の参加があり、職員は主に法人内研修会に参加することで介護技術の習得を行っている。また、日々のミーティングにて管理者から指導を受けている。	○	職員により、問題意識や記録の仕方・ケアの方法に違いがあるため、定期的に内部の事例検討会をする等、統一した意識が持てるための方法を検討されたい。職員の専門性を高め安定したサービスが行えるよう、出来ることから取り組むことが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会で同業者との交流を図り、実習生の受け入れを行う中で情報交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院や施設からの利用となる場合は管理者が面会に行き、安心してサービス利用できるように取り組みはしている。利用前に、出来るだけ情報をもらえるよう関係者に協力を依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の尊厳を守る努力をしながらともに過ごし、料理や障子貼り等、日常生活の中で利用者に教えてもらう場面を多くしている。利用者が出来ることは利用者にして頂くということを大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりにスポットをあて、利用者本人に決定してもらえるように取り組んでいる。「その人まるごとシート」で情報の共有に努め、個別アセスメントに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントツールを使い、計画作成担当者を中心に職員や家族と検討している。サービス利用開始より3ヶ月毎に介護計画についての話し合いを持っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行い、その間も必要に応じて見直しを行っている。随時記録をしており、記録物に関しても整理をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診介助や家族宿泊に対応したサービスを行っている。それ以外の支援については、今後の方針を検討中である。	○	宿泊体験や日帰り体験など、事業所の多機能性を活かした具体的な支援を構想中とのことであるので、更なる支援が期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては、利用者及び家族の希望を大事にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての方針を持ち、家族の意向を聞いたうえでその都度同意を頂き、記録を残している。法人全体で利用者を支援するという姿勢を持ち、協力医や施設の支援を活用しながら、その人らしい生活のありようを検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに関しては法人全体で研修しており、個人の記録物管理もしている。排泄時の言葉かけや日常的な声かけに注意をはらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者により水まきや畑仕事などの行動ルールがあるため、職員はそれを大切に捉えるようにしている。また、体調により食事時間を遅らせるという配慮もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は能力に応じて行ってもらい、自立を尊重して出来るだけ自己摂取を見守ることとしている。利用者と職員が同じテーブルにつき、楽しい会話の中で食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は、好きな時に温泉入浴を楽しめており、男女別の表札が温泉の雰囲気をもっとしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園作り・買い物・朝食づくり等、利用者によってそれぞれの生活力を活かしている。また、デイサービスへの参加も楽しみや気晴らしの一つになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日一回は室外に出かけており、日常的な散歩等は適宜支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動パターンを把握し、鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する法人施設とともに消防訓練を行い、夜間を想定した避難訓練も行っている。また、地域消防団に声かけをしており、緊急時には近隣に協力をもらえるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夕食は隣接施設から運び、朝・昼食を職員と利用者で作っている。法人内栄養士による栄養バランスの管理を行っており、摂取量や体重管理の記録も認める。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	懐かしい民芸家具や調度品が置いてあり、季節を感じさせる装飾を施している。落ち着いた採光の中、利用者はそれぞれの居場所を持って過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの家具や寝具があり、畳や位牌の持ち込みも見られる。希望者は専用電話を取り付け、外部と自由な連絡交流を楽しんでいる。		